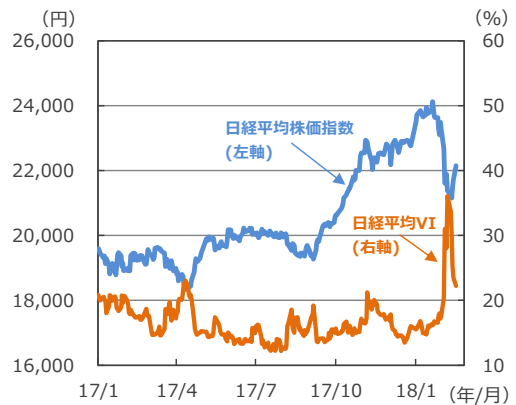


今日のトピック 日本株式市場の見通し 変動性の高まりは収束の方向へ

ポイント1 変動性の高まりは収束の方向 日経平均VIはピークアウト

- 日本株式市場は、米国金利の上昇を背景とした米国株式市場の調整と米ドル安/円高の進行などから大幅な調整を余儀なくされました。その過程で、日経平均VIも大幅に上昇しました。
- 日経平均VIは、市場が期待する将来1カ月の変動率を推定した指数です。過去の経験則では、30%~40%程度まで上昇すると株式市場の底入れの目安になると考えられます。今回は2月9日に36.1%まで上昇し、19日は22.2%まで低下しました。

【日経平均株価指数と日経平均VI】

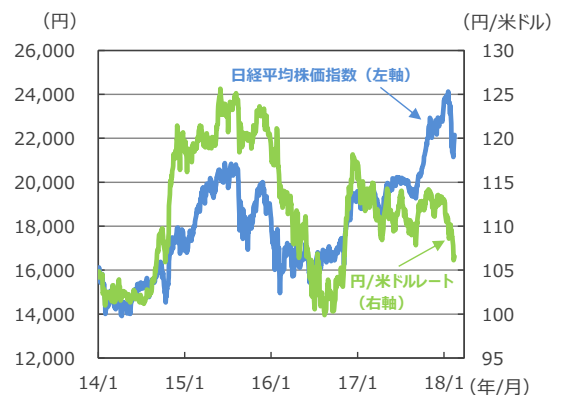


(注) データは2017年1月4日~2018年2月19日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 株価調整に一巡感 景気・業績を再評価

- 19日の日経平均株価指数は、前週末比428.96円高の2万2,149.21円と、2万2,000円台に乗せて引きました。為替市場での急速な円高警戒感が和らいだことや好調な企業業績などを背景に、株価調整が一巡した可能性があるとして買いが集まりました。予想株価収益率も16.2倍（Bloombergによる12カ月先予想利益）と2011年以降の平均値（15.8倍）近くに返っており、割高感は和らいでいます。

【日経平均株価指数と円/米ドルレート】



(注) データは2014年1月6日~2018年2月19日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 日本株式の円高抵抗力に注目

- 円高は2月16日まで続き、一時円/米ドルレートは105円台半ばと1年3カ月ぶりの高値まで上昇しました。一方、日経平均株価指数は、円高が進んでいた15日から反騰に転じました。振り返れば、2016年、17年も円高が進む過程でも株価は大幅な調整とはなりませんでしたが、2015年は今よりはるかに円安水準ですが、株価は今のほうが高い水準にあります。
- こうした日本株式の円高に対する抵抗力が今後も強まるかが注目されます。背景の一つには、日本企業の為替抵抗力の向上に伴う輸出競争力の回復が挙げられます。世界経済が回復する中、輸出数量も伸びる環境となっています。輸出企業にとって追い風が吹いており、業績の上振れにも注目が集まりそうです。

ここもチェック! 2018年2月20日 日米金利差拡大でも『円高』が加速しないワケ
2018年2月 6日 日米株式市場の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。